

平成26年度 第4回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成26年12月2日（火）午後3時～午後5時

◇場所：本庁議会棟3階 委員会室

◇出席委員：13名（欠席2名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開会

2 協議

（1）アンケート調査結果（速報）について（資料1）

事務局より説明。

○：アンケートの回収率が約5割と低いが，途中経過という理解でよいか。

●：3～4件反映されていないが，ほぼ最終値に近いものである。

○：これまで市で行ったアンケートの回収率と比べてどうか。

●：長期総合計画のような市民一般を対象としたアンケートでは，4割を少し超えるぐらいの回収率である。

○：今回のアンケートは無作為抽出ではなく，団体の方を対象としており，相手がわかっている。

●：記名回答のため回収率が低くなったのかもしれない。統計的にはこの回収率で全体の方向性は把握できることをコンサルに確認した。

（2）町内会等へのヒアリング実施について（資料2，資料3）

事務局より説明。

○：住民組織活性化構想に中核組織をつくる方針が示されているが，中核組織というものが自治会・町内会にイメージが伝わっていない。前に進めていくためには，自治会・町内会に中核組織に対するイメージをしっかりとっていただき，ヒアリングをする必要がある。

○：中核組織の捉え方が皆さん違うと思う。小学校区単位でも1つの共通の目的を持って連合を組むのは難しいと思う。一方，町単位で町内会を作っているところは，町内のいろいろな団体を巻き込んで一つの形を作り上げている。それらを同じ舞台上に上げるということも問題があるのではないか。

○：連合という組織化がされていなくても，連携を取りながらイベントは行われている。それぞれが持っている中核組織に対するイメージが違う。

○：地域の町内会の成り立ちが違う。

○：普段の活動は町単位で，隣の町と一緒に活動するときは連合としてなど，使い分けて活動されているのではないか。

○：そうした中核組織としての役割を果たしている部分もある。それを中核組織にするととなると，抵抗があると思う。

●：学校統合などもあり，住民組織活性化構想ができたときと小学校区の間考え方が大きく変わってきている。総務省の地域の考え方について，旧小学校区も一つの形と整理されたものもある。旧小学校区も踏まえながら今後の中核組織のあり方を考えていく必要がある。また，非常に大きな地域もあ

り、ヒアリング等のなかで一番いい形を調査していきたい。

- ：文化は町単位で行っているの、この部分は中核組織で、この部分だけは単独でというのは難しい。
町内会にある小さな団体と連携を取っている。連合とも言えるが、それぞれ方向性が違う。中核組織について、もう少し広報しないとイケない。
- ：町内会単独で活動できなくても、連合を作ることにより活動ができるというメリットはあると思う。
- ：防災訓練や敬老会など、テーマによっては町内会単独では段取りできない場合でも、連合で行うことで活動が可能になる。
- ：町内会で問題が上がれば、連合で解決方法を見つけていくこともできる。
- ：今のような実例を含めたメリットを含めてヒアリングをしていかないといけない。
- ：防災や高齢者の見守り支援など中核組織で取り組めるメリットがある。しかし、中核組織をつくれればよいということではなく、足りない人材は市民活動団と連携し、また、それをコーディネートする地域の推進員を置くといった、地域ごとに組織を変えられるような形になればいいのではないか。
- ：機能していない町内会へは、中核組織から人の支援もされている。そういった良さを中核組織未設置の町内会に伝え、基礎町内会から中核組織にしていけたらいいと思う。
- ：中核組織ができていないところは、まず防災の組織を作るほうがいいのではないか。防災組織での活動することで町内が盛り上がっていき、中核組織が成り立っていくと思う。
- ：住民組織へのヒアリング方法は事務局で案として持っているか。
- ：まだこれからである。中核組織のメリットについて整理していきたい。また、デメリット、苦勞する部分もあると思うので、それを踏まえたうえでヒアリングしたい。
- ：旧三原市で13団体の中核組織があるが、この中に町をまたがっている組織はあるのか。
- ：西小学校区町内会連合会、東部連合町内会がある。
- ：ヒアリングでは、町の中にある町内会を中核組織にしていくものと、町を越えて中核にしていくものと2つに分けて考える必要がある。
- ：これからヒアリングを行っていくなかで、将来どういった不安や心配事があるかといった点もお聞きしたいと考えている。
- ：中核組織になれば町内会で苦勞していた部分が解決できるなら、前向きに考えることを導き出すことが重要。
- ：課題の解決のためには、中核組織だけでなく、他の団体と連携したほうがよいということもある。合意形成のプロセスを第三者的にみる機関がないと、ただ中核組織を運営するためだけになってしまわないか。
- ：町内会が活性化しないのはなぜかという「少子高齢化」という声が出る。自主防災でも自分たちも最初はそう捉えていたが、実際には違っており、そのときにリーダーがいなかったことであつた。
- ：中核組織であれば、町内会でできないことをフォローできるのではないか。
- ：アンケート結果をみると、中核組織ができるとしんどくなる、動きづらくなるという思いを持たれている方が多い。そうではないことをヒアリングで伝えなければいけない。中核組織ができた後、マネジメントする人を育てるシステム作りをしていかないといけない。
- ：高齢者ばかりで活動できないところもあるが、そういうところを含めて中核組織でカバーしていく。

地域の見守りについても、小さい単位よりも、中核組織のほうがやりやすいのではないかと思う。

○：旧市内の中核組織の立ち上げは、大和や久井と違う難しい面があるように思う。若い人がまとまって立ち上げるといいのではないか。

○：本郷、久井、大和地域と旧三原市の町単位の町内会でヒアリングの方法を変える必要があると思う。どこまでを中核組織にするのかははっきりさせないといけない。はっきりさせてから、タイプごとにヒアリングをしていかないといけない。

○：一つには、2組織のところを組織化し、できるだけまとめて立ち上げれば、負担が少なくなるということではないか。

●：アンケートから、中核組織は他の団体と連携して地域の課題を解決していると想像できる。一方、自治会・町内会は協働という手法をとることがあまりないことが見て取れる。もし、中核組織となって、いろいろな課題解決が協働により進むのであれば、検討してみるべきではないかと思っている。しかし、無理に地域をまとめていくのは無理だろうと思う。

○：このアンケート結果から、自分たちだったらどのようにしていけばよいか、お互いにヒアリングしながら、解決方法を見つけていけばいいのではないか。

○：アンケートでは、自治会・町内会で市民協働のまちづくりの推進が必要でない、わからないという回答が結構な割合を占めている。なぜ、そのようになったかを掘り下げれば策が見えてくるのではないか。

○：中核組織という言葉だけが先行してそのイメージができあがっている。そういう組織をどう作ればいいのかを含めてヒアリングする必要がある。そのためヒアリングをどのように行うかを詰める部会を開きたい。

●：この委員の中から活動中核組織及び防災会で活動されている5名の方に部会の委員をお願いしたい。

○：大和、久井、本郷は中核組織になっている。中核組織になっていないところを重点的にヒアリングしていく必要があるのではないか。

○：今回、中核組織を作っていないところにヒアリングをする。そのヒアリングをどのような内容にしていくのかについて、委員会とは別に意見をいただくのが部会だと思う。

○：事務局から提案のあった各委員の皆様、部会に入ってくださいよいか。

(5名の委員の了承を得る)

○：住民組織活性化構想にあるような図で、本郷、久井、大和といった地域ごとの町内会等がどれにあてはまって、どんな活動をしているというものはないのか。

●：活動までではないが、町内会名が入ったものはある。

○：合併前の市町で名称が違っている。規模や名称が違っているため言葉が混乱しがちなので、部会やヒアリングを行うときには、基礎組織、中核組織、連合組織は旧町ではこういう名称で呼ばれ、できれば活動内容も分かれば、あまり知識がない人でも分かる。

●：部会のなかでもそのあたりのことを確認させていただく。

3 報告

市民活動団体へのヒアリング実施について

事務局より説明。

○：テーマを3つに絞った理由はなにか。

●：テーマとして、子育て、女性の視点、地域づくりが市全体の協働という形で捉えている。

4 その他

5 閉会